

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとあたま・体のリハ室（単位1）		
○保護者評価実施期間	2026年3月10日 ～ 2026年4月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	2026年3月10日 ～ 2026年4月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験のある職員と専門職員の配置	日々の観察やアセスメントに基づいた児童への関わり方をスタッフで確認、統一している。 日々の変化をこまめに連絡しあうことで、保護者との連携を維持出来ている。	内部での事例検討や勉強会を実施し、凝り固まらず専門知識や柔軟なアイデアをディスカッションしていきたい。今は利用児はいないが、多機能型ならではのアクティビティやプログラムに取り組んでいきたい。
2	頻回なアセスメント～フィードバックの好循環	子どもの特性や得意・不得意、性格、月齢に合わせた能力の開発など、日々の活動に工夫している。こまめに連絡しあうことが保護者の安心感を担保していると考えている。	定期的なモニタリングや者面談に加え、日常の情報共有と動画を取り入れ、専門的な指導場面説明を加えていきたい。よ療育内容をわかりやすく開示していけるように努めたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部との連携	事業所内での療育環境やスタッフによるサーキットメニュー、専門アプローチの構築に注力している。 反面、地域社会と交わる機会の提供が後回しになっていた。	スタッフに負担のない範囲だが、地域のボランティア団体や高齢者施設等との緩やかな交流機会を模索していきたい。子ども達も安心かつ精神的負担なく、地域と触れ合えるイベントを企画してもよいのかもしれない。
2	多機能型の性質	年齢に応じた療育実践、活動を組み立てることを重視している。 反面、地域の人を招くといった交流は不足している。	地域での買い物体験、近隣の児童館との合同イベントなど、未就学児から就学児までがそれぞれの発達段階に応じて参加できる地域交流を負担のない範囲で導入を模索していきたいと考える。 障害特性を把握し、安心安全な地域との交流が図れるように検討をしていきたい。
3			